

ふくしま再生の会
第2回福島報告会
福島、飯舘村の再生に向けて

放射能分析チーム、サークルまでの活動

伊井一夫

2015年11月6日 県庁南再エネビル、イベントホール

＜放射能分析チーム、サークルまでの主な活動＞

飯舘村、近隣地域で採取された土壌、樹木、
作物、野草、コケ、キノコ、イノシシ等

東京大学農学部 サークルまでい

サンプルの前処理（土壌羊糞の2cm切、粃摺り、精米他）
測定用容器に詰め、重量測定

放射性同位元素施設で測定

測定済サンプル乾燥、重量測定、
測定後サンプルの輸送保管（佐須試料庫）

測定結果、測定済サンプル



福島県飯館村の再生を応援します

東大農学部ボランティアサークル

「までい」

東京で飯館村復興支援ボランティアをしませんか!!

福島県飯館村は2011年3月の福島第1原子力発電所事故により、村民は全員避難生活を余儀なくされています。こうした状況の中、事故直後から「ふくしま再生の会」のボランティア数十名が村の生活を再生と村民の一日も早い帰村を目指して、飯館村に入りました。週末に飯館村へ行き、地元農家と一緒に暗中模索しながら、緻密な放射能汚染の測定や農水省のマニュアルにない除染方法などを試験しています。

しかし、田畑の除染、農作物を含む植物の放射能測定、野生動物の解剖・検査、放射能測定など、試験結果の解釈等には専門の研究者の協力が必要です。

こうした中、2012年9月に飯館村村長から農学生命科学研究科長宛に研究協力要請の書簡が届き、研究科長もこの要請に応えるかたちの書簡を返信しました。これによって農学生命科学研究科の関係者が飯館村で活動できるようになりました。

研究科内には現地へ足を運ぶことのできなくても福島のボランティア活動に何らかのかたちで参加したいと思っている教職員が多くいます。

そこで、私たちは現地に行かなくても東京に居ながら飯館村再生のためのボランティア活動に参加できる教職員サークル「までい」を立ち上げることにしました。

このサークルには農学生命科学研究科の教職員であれば誰でも参加できます。当面の活動は、「ふくしま再生の会」が、独自に生み出した方法で除染を行った飯館村の水田に、試験栽培した稲や、他の植物の放射能測定用サンプル作成などの手伝いを、東京在住の「ふくしま再生の会」の人たちと協働で行う予定です。

東京で飯館村復興支援ボランティアをしませんか!! 関心のある方は下記までご連絡ください。お待ちしております。

なお、「までい(真手い)」とは、飯館村の方言で「手間ひまを惜みず」、「丁寧に」、「時間をかけて」、「心を込めて」という意味だそうです。

場所：農学部職員サークル室(農学部1号館地下1-2号室)





土壤羊糞の2cm切、
1,000番目のサンプル(2013年3月)



粃摺り、玄米サンプルの作成

最近のサークルまでい定例活動日(2015年10月27日)



松塚土壤の容器詰め(通算10500バイアル)



松塚土壤の重量測定、データ入力



佐須試験田の粃サンプルの乾燥



佐須試験田の粃摺前、
玄米測定用容器の準備(夜の部)

＜これまでに分かったこと＞

1. 土壌の放射性セシウムは、ほとんどが表面近くに留まっており、表面を浅代掻きやユンボで剥がす除染は効果がある。
2. 稲に関しては、土壌除染、土壌カリ濃度の調整（乾燥土壌100gあたり酸化カリ20mg以上）で、放射性セシウム濃度を低く抑えることができ、食品基準を満たせる。
3. 樹木は、樹皮や事故当時の葉には、依然高い放射性セシウムが残っているが、新たな枝葉では低くなり、材の部分では低いですがセシウムの移行もある。
4. 地表面、落葉や樹皮に生えるコケやキノコは、依然として高いものがある。
5. 根が地中にのびる作物は、土壌除染、土壌カリの調整で、食品基準を満たせる。

<これから行いたいこと>

1. 土壌、米、野草、野菜、コケ、イノシシ等の測定を継続し、経時変化を見て、将来予測できるようにする。
2. 測定データのデータベース化を進め、村民の方々にわかりやすい形で情報を提供する。
3. 村民の方々と協働し、「現地で、村民自身が行える放射能測定」を実現する。